

第5回全国銃剣道指導者研修会



中学校必修化対応・高校部活動班：直突

第5回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月9日～11日の3日間、千葉県・勝浦市の日本武道館研修センターで、76名の参加者が集まり実施された。

本研修会は、日本全国で銃剣道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「銃剣道」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実に図り、もって全国的な銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的として行われた。

■ 1日目（11月9日）

はじめに鈴木健すずき けん全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立ち、「本研修会の趣旨は、中学校武道必修化に伴う銃剣道の授業について、中学校保健体育科教員及び地域社会体育指導者の方々の銃剣道指導力の向上を図ることにあります。当連盟では中学校における銃剣道の授業について、2通りの授業者を想定しています。まずは、中学校の教員です。銃剣道を知り、理解し、授業をしていただきたいと思います。そして、地域指導者



鈴木 健
副会長・専務理事

による外部指導員としての指導です。

本研修会今回で5回目の開催となりますが、研修会の趣旨に則り、毎回レベルアップしていきたいと考えています。また、今回は学校関係者の方に多く参加していただいておりますので、お互い交流を図りながら銃剣道を理解し、銃剣道を広めていただければ幸いです。短い期間ではありますが、意義のある3日間にしていただきたいと思います」と述べた。

続いて、吉野喜信よしの よしのぶ日本武道館振興部長が挨拶に立ち、「本研修会は、日本武道館と全日本銃剣道連盟の共催による国庫補助対象事業であり、5回目の開催となります。中学校武道必修化が始まり本年7年目を迎えますが、3年後には学習指導要領が改訂され、第2ステージとなります。次期学習指導要領では武道9種目が並列明記されることが決まりました。今後さらに力を注いでいかなければならないと思っております。



吉野 喜信
振興部長

本研修会は、指導力の向上と同時に、中学校武道必修化でどのような事ができるのかを社会体育の先生方に学んでいただく機会でもあります。教育現場と社会体育指導者が協力しな

がら、中学校から高校へと武道の道筋を立てて
いただきたいと思います。

外国では、日本の武道を単なる競技スポーツ
ではなく、人格形成の道と捉えています。相手
を尊重すること、どんな相手にも礼を尽くすこ
とが武道精神であると彼らは考えています。

武道は教育において、非常に可能性を持った
教材ですので、学校現場で生かしていただけれ
ばと思います。3日間が実りあるものとなるこ
とを祈念いたします」と述べた。

開講式終了後、中学校武道必修化指導書 DVD
の武道編を全員で視聴、その後、鈴木講師が『全
日本銃剣道連盟における必修化への対応と取組』
と題して講義を行った。まず、中学校武道必修化
が始まってからの実施種目の推移、授業時間数、
授業効果等について報告し、銃剣道の置かれてい
る状況を説明した。連盟の取組として指導者の育
成、指導方法の研究、安全性の向上、理解者の拡
大努力等が挙げられた。また、平成 29 年に『安全
ガイドブック』を作成し、安全面に配慮している
ことが強調された。「銃剣道は技がシンプルで教
えやすく、集団での教育が可能です。また、ケガ
も少なく、安全に実施できます。木銃があれば授
業ができるため経済的でもあります」と授業で銃
剣道を実施する上での魅力を述べた。

その後、『学校授業における銃剣道指導法』を
滝沢 元気 講師指導の下、5 時間設定の 3 時間目
の授業を想定し、地区ごとに 5 グループに分かれ、
メインの教員役と補助教員の 2 名体制となり模擬
授業が行われた。滝沢元気講師は総括として「T・
T の打ち合わせが不十分なため、補助教員のやる
べきことができていなかった。また、学習目標の



指導内容について指導者側がしっかり理解しき
れていなかった」と述べた。

■ 2 日目 (11月10日)

中学校必修化対応・高校部活動 (A 班) と社会
体育指導者 (B 班) に分かれ、目的別実技研修が
行われた。A 班は滝沢講師が中心となり、午前中
は、中学校武道授業の内容説明、礼法、タオルを
利用としての構えと直れ、足さばき (送り足・開
き足)、木銃の持ち方、木銃を持っての足さばき、
直突が行われた。直突では目標物を正しく突くた
めに新聞紙やゴムボールを突いた。



午後からは、号令のもと送り足に合わせて突く
練習、直突 (基本の交差、反対の交差)、銃剣道の
形 1 本目と 2 本目 (中学校授業用)、試合 (ペアに
なりトーナメント方式) を行った。滝沢講師は「2
日間の成果がしっかり表れ、素晴らしい試合でし
た。特に声がよくでていた」と講評した。その後、
打ち払い、払い突き、銃剣道の形 5 本目と 6 本目
(中学校授業用) を行った。

B 班は 御山 昇 講師の指導で基本技を中心に、
佐藤 亨 講師の指導で応用技を中心に実施した。

最後に班ごとに研究討議 (A 班: 授業実施校・
部活動採用校拡大の施策について、B1 班: 基本
技・形指導における見解統一を要する事項につ
いて、B2 班: 女子のけいこ環境について) を行い、
二日目は終了した。

■ 3 日目 (11月11日)

まず、二日目に行った研究討議についての発表
をそれぞれ行った。閉講式では佐藤講師が講師講
評を、松尾貴之日本武道館振興課長が修了証授与
と主催者挨拶を行い、全日程を終了した。